

# タイ・ムン川（メコン河支流）における 住民主体の生態系 配慮型治水確立に 向けた情報発信・ 政策提言

2021-2023年度

地球環境基金助成事業

特定非営利活動法人メコン・ウォッチ



© Panya Khamlarp

## 団体紹介： メコン・ウォッチ

東南アジアのメコン河流域での開発や経済協力が、地域の自然資源を糧としている人々の生活を脅かさないよう、調査研究や開発機関への働きかけを行っている政策提言NGO



# メコン・ウォッチの活動

メコン河流域で暮らす人たちが、主体的に生活を守り続けていくためのお手伝い

メコン河流域の人々と川や森林などの自然資源とのつながりに関する調査

地域の生活や自然資源へ悪影響を及ぼす経済協力・投資のモニタリング

メコン河流域国の環境と開発に関する問題を日本の市民に伝える活動

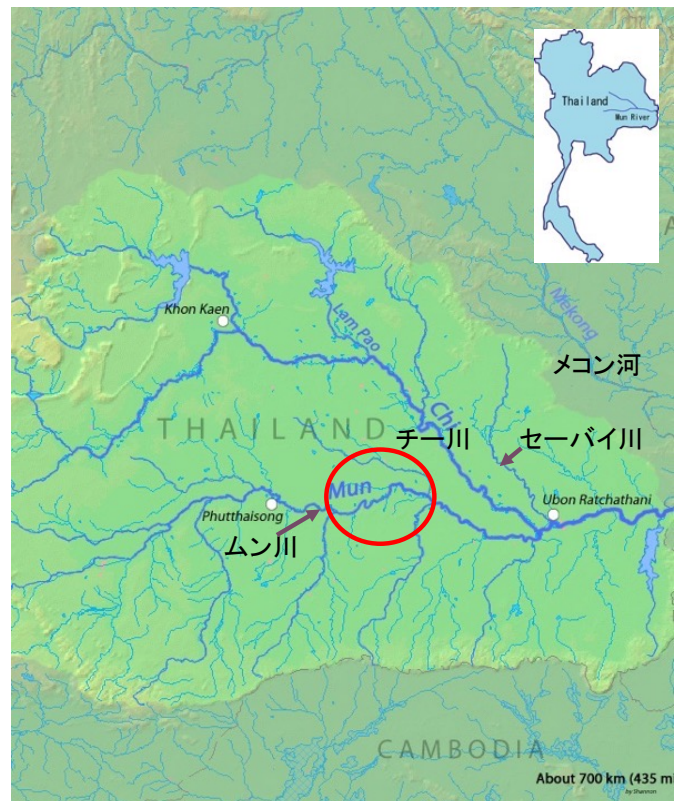
政府機関や多国間金融機関、企業に対する政策提言活動

## 助成を受ける経緯 (1)

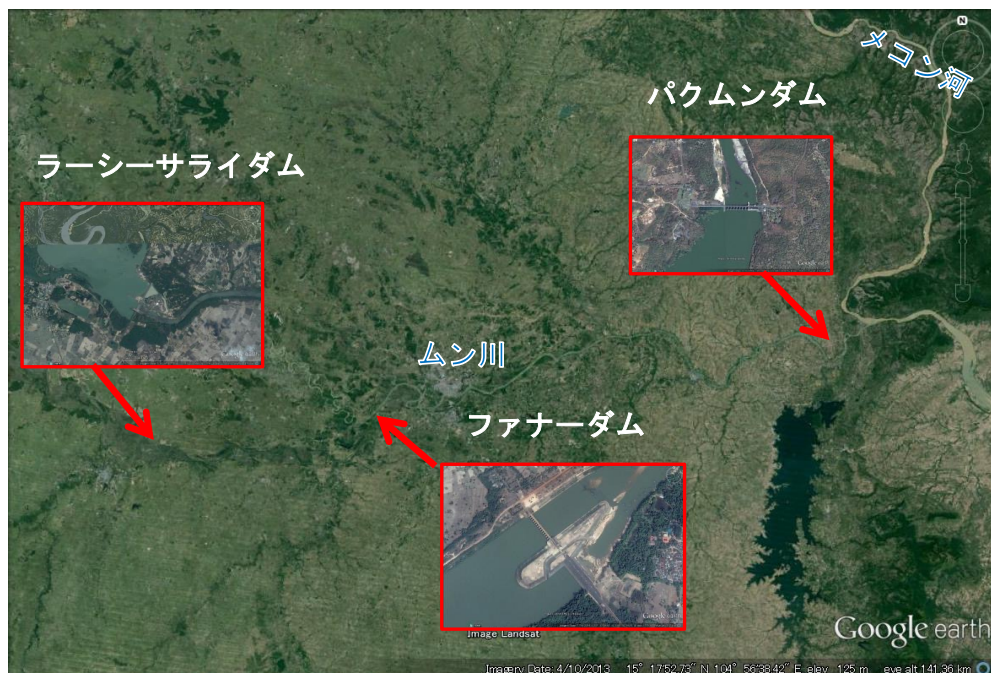
### プロジェクト地の状況

タイ国東北部スリン、シーサケット、ロイエットの3県のムン川中流域

- 環境配慮の不十分な過去のダム開発や灌漑事業等の影響で、生態系が劣化
- 気候変動の影響の顕在化
- 住民は生業に利用してきた自然資源の劣化や旱魃と洪水に悩まされる
- パンデミックの影響下で、農村回帰・自然資源利用の再評価が起きた一方、新たに大規模導水計画が持ち上がる



# 河口から3つのダム



事業地は  
ラーシーサライダム  
の影響地域と重なる

かつては、メコン河  
からの魚の回遊が多  
くみられたが、現在  
はダムなどの影響に  
より、回遊はほとん  
ど見られない

5

## 助成を受ける経緯 (2)

### これまでの活動

- ムン川下流や中流域で魚の保全のための調査を実施。住民の知見を集める
- 集めた情報をまとめ、地域と共有
- 次世代への普及

### > 限界

- 開発により魚の生息環境の劣化は続く
- 環境劣化がもたらした地域住民の環境保全意識の低下





セーバイ川流域の浸水林

## 助成活動について

「タイ・ムン川（メコン河支流）における住民主体の生態系配慮型治水確立に向けた情報発信・政策提言」

### プロジェクトのゴール：

メコン河の重要な支流ムン川で、コンクリートに過度に頼らない、住民参加型で生態系に配慮した治水のアイデアや、グッドプラクティスが広く認知され、水管理政策に反映される

> 調査で「**東北タイの湿地に配慮した開発と水資源管理**」という認識を広める必要性を確認

## 作成した映像10本を制作・公開中

YouTubeチャンネル @mekongwatch

Facebookのページでは、上記映像から作成した短縮版も公開



タームの森と人びと  
タームの森(浸水林)とその自然資源を利用する住民の生業を紹介



コミュニティの灌漑  
住民主体灌漑、大規模灌漑施設、水配分の問題を抱える地域を取材



タームの森の放牧  
浸水林は放牧地としても利用されてきた。開発によってそのありがたが変っても重要性は減じていない



社会的脆弱層とは  
開発の中で置き去りになりがちな女性や子どもについて人々の経験と研究者の解説

# 活動成果

## タイ・ムン川中流域の経験共有:アクションリサーチによる情報収集

- プロジェクト地でのフォーカスグループインタビューによる情報収集
- ビデオ制作のための調査
- 研究者との意見交換
- 近隣住民グループと交流(メコン河本流、セーバイ川など)
- 地域行政・天然資源環境省との意見交換
- 水資源管理の専門家による講習

## 日本の経験についての情報収集、タイ向けのビデオ制作

- 日本の流域治水に関する理解を深める
- 熊本県球磨川流域調査
- > 状況が異なり十分に活用できず。

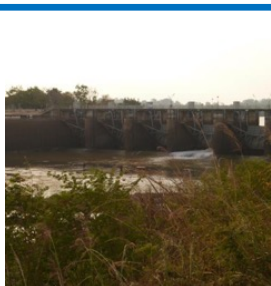
## 情報発信:ショートビデオの制作とSNSでの情報拡散

- タイで利用の多いFacebookに「พื้นที่ชุ่มน้ำ อีสาน -Wetlands of ISAN (東北タイの湿地)」を立ち上げ、映像の公開
- 大学での上映会開催(3大5学部)

>> 政策提言文書の最終化に向けて作業中

# ムン川中流域の治水と環境

水の配分や使い過ぎより水辺の環境保全が争点



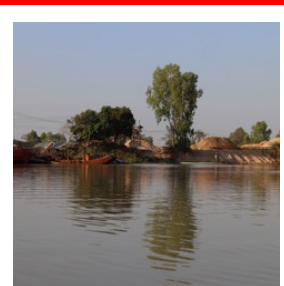
ダムによる環境改変  
前提条件



堰の建設と工事  
想定していた問題



「護岸」工事  
想定していた問題/  
住民も強い懸念



砂採掘  
住民が特に強い懸念

「洪水(ナム・トゥアム)」は本来災害ではなく季節性的変化。河岸の森は治水にも重要な役割

## タームの森（東北タイの湿地）の環境特性： 雨季と乾季の大きな降雨差によって生じる



11

### タームの森と人びと

- タームの森とはどのような場所か
- 川との関係
- 人びとはタームでどのような生業を行っているか
- 人びとが今、何を懸念しているのか



## ドンレート地区の水管理

- 灌漑用水は届いたが・・・
- 住民が管理し続けるにはシステムが大きく、負担も
- 水田までの水路の建設
- 転落事故
- 水の値段（汲み上げるための電気代やガソリン代）と米の値段の関係
- ゼロエミッションが求められる中、動力が必要な灌漑は持続的？



## タームの森の知恵-セーバイ川

- プロジェクト対象地外との交流で訪問：ヤソトン県カムクアングオ郡
- グッドプラクティス：セーバイ川流域のタームの森の保全
- ムン川中流域の住民にとって、環境が大きく変わる前の状況を知る・思い出す場

（「護岸」や洪水対策を行う灌漑局・港湾局に対し、自然の重要性を再度伝える）





## 住民の求める水管理

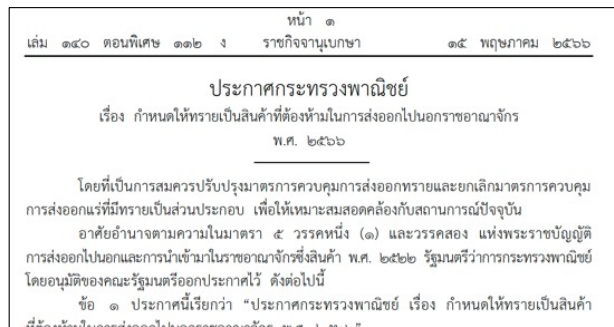
水だけでなく、水辺の環境を含め、自主的な管理を求める。そのための「保全区」の設置が指向された

- 住民の中にもある、短絡的経済活動を制限する
- 企業の収奪的経済活動を、対立せずに牽制する必要性（砂採掘）
- 事業中での省庁との意見交換で、各省庁で保全区設置の認識が異なる点などが確認できた
- タイの土地権の混乱

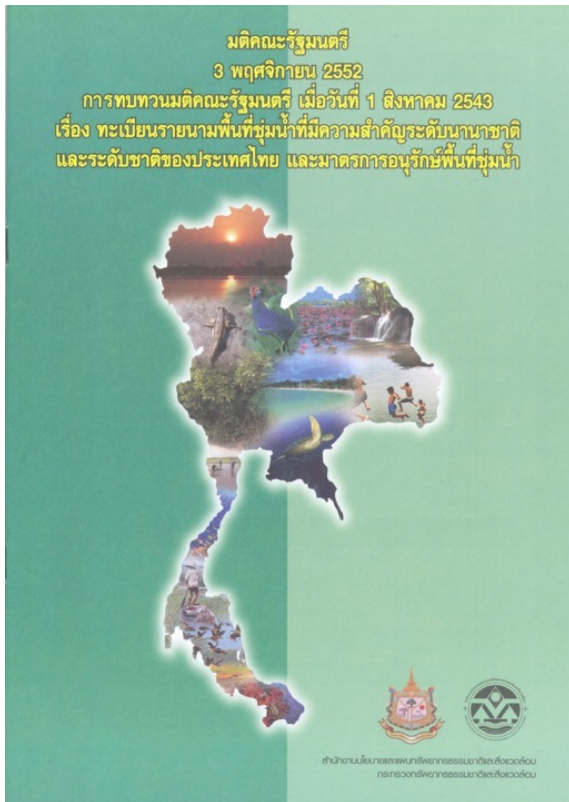
> 住民が参加し、自主的な管理ができる「保全区」はどのように可能となるか

## 砂採掘の問題

- 世界で2番目に使用されている資源：砂
- 小規模企業による小規模な活動で、管理が難しい
- 国連の調整では各国で「砂マフィア」が暗躍する事態に
- タイでも砂不足（昨年禁輸処置がとられた）
- ムン川流域でも年々採取量が増加し、河岸崩落、河床に影響が出ている







## 「保全区」はどうあるべきか

住民の懸念：ラムサール条約湿地に登録したことで、住民の湿地へのアクセスが制限された（すでに事例あり）

- 2009年11月3日閣議決定に「国際的・国内的に重要な湿地については、**禁猟区**、または、環境保全地区、または、その他の保全地区として宣言すること」とある
- タイの禁猟区の規定は厳しく、住民が資源や場所にアクセスできなくなる>ラムサール条約の理念である「ワイズユース（賢明な利用）」に反する運用がなされている
- 東北タイ淡水漁業コミュニティ協会(シーサケット)に参加する住民を中心に「禁猟区」設置の項を外すよう政府に働きかけることに（その後地方行政下の「保全区」宣言を行う見込み）

17



## 助成終了後の 成果の効果的活用

- 参加型の現地調査で作成した政策提言文書を、住民グループが利用し、浸水林の保全区設置を目指す
- 地方の行政組織や天然資源環境省との協力による保全区の確保
- 活動地外の住民グループとの協力関係強化
- 村落との協働をカリキュラムに組み込む、人文系の大学（ラチャパットスリン大学、マハーサラカム大学など）との協力関係の強化により、住民の活動をサポート
- 国際的環境保護ネットワークから関心表明



特定非営利活動法人  
メコン・ウォッチ

ありがとうございました

| [info@mekongwatch.org](mailto:info@mekongwatch.org) | [www.mekongwatch.org](http://www.mekongwatch.org)